円盤と宇宙哲学の研究誌

日本GAPニューズレター

1963

9月・10月

日本ＧＡＰニューズレター

—１９６３—
9月・10月号目次　　通巻第18号

永遠に生きるためには …… Ｇ・アダムスキー　1
ハニー　アダムスキーの後継者となる …… 3
質　疑　応　答 …… Ｃ・Ａ・ハニー　6
聖書の再検討 …… 〃　10
セルミナラ博士の哲学 …… 〃　12
メンゼルは科学者にあらず …… 〃　14
難関突破が近づいた …… 〃　16
４万４千マイルにわたる地割れ …… 〃　18
９個所の退避地 …… 〃　20
ソ連からの驚くべき情報 …… Ｇ・Ｗ・クレイトン　21
テレパシー通信講座始まる …… 24
編　集　後　記 …… 25

永遠に生きるためには

G・アダムスキー

ゾンビとは何でしょう？　ゾンビとロボットとは同一物です。（注。ゾンビとは魔法によって生き返らされた死体。あやつり人形と化す）それは意志をもたない形態か、または他からの影響力によってあやつられる形態です。ロボットは遠隔操作かまたは内部に仕掛けられたテープレコーディングによって作動しますが、それが知的な表現手段として唯一のものです。

三十億の人間が地球の表面から突然一掃されたらどうなるでしょうか。おそらく全人類の九十九パーセントは永遠というものを知らないで消滅するでしょう。人間は〝習慣〟というテープレコーディングによって動いているからです。人間は創意をあらわすことはまずありません。「肉体を斬る者を恐れないで魂を斬る者を恐れよ」とイエスはいっています。私はイエスがウソつきだったとは思いません。

斬られたり破壊されたりすることがあるとすれば魂とは何でしょう？　これはハニー氏の記事〝センスマインドとソウルマインド〟（注。本誌今年七月・八月号に掲載）にうまく説明されていると思います。これがイエスのいう破壊されることもある魂です。この魂は肉体と同様にミネラルでできているのですが、相続の法則によって〝大霊〟の潜在性をもっています。しかし永遠の生命の目的―そのために魂が創造されたのですが―を遂行するためには、魂自体のもつ領土を捨ててしまい、個我としてのそれ自体をなくして〝宇宙の魂〟の奉仕のために生まれかわることが必要です。これが「私の意志でなくてあなたの意志が（奉仕として）なされる」という意味です。

これを別なふうに説明しますと、ミネラルでできている個人の魂は〝大霊〟と融合するようになるものなのであるといえます。そこには〝二〟のかわりに〝一〟だけが存在します。そこで私と父とは一体であるといえるわけです。〝父〟は永遠でありますから魂も永遠化するのです。しかし現在そうであるように現世においては魂は一時的なものです。そしてそれは〝大霊〟の一つの現象であるために他の現象によって自らを支えています。ところが他の現象のほとんどは他人によって無数にくり返されてきた現象の世界から影響を受けています。

そこで、人類の大多数はゾンビ型の生存を続けているかまたはロボット型の生活を送っていて、創意をほとんどあらわしていないということができます。

この問題については残念ながら適確に説明した他の文献が見当りません。〝生まれかわり〟について書かれた書物のほとんどはカルマについて語り、結局だれもが〝救われるのだ〟という印象を与えています。あるいは「人間はレッスンを学ぼうとしなくて

も自己の生き方や向上の仕方について思いわずらう必要はない。なぜならば人間は永遠のすべてと何度も生まれかわる機会をもっているからだ」という人もあります。しかしこれは真実ではありません。

人間が宇宙の方則に従うことや〝宇宙の魂〟に個人の魂を没入させることを学ばなければ、本人は個我としての自己の正体を破壊することになるのです。人間は無限に生まれかわる機会をもっているのではありません。これはあなたが自己の正体を永遠にもち続けようとする場合にきわめて重要なことです。

この法則をこの世界で教えている教師を私は知りません。なぜならこれは土星で私に与えられた全く新しい教えであるからです。人間が自分の本来の自我に気づくのにはこの法則の熱烈な探求を必要とします。右の法則は一度正しく理解されるならば実際に永遠へのキーとなるものです。それは真実の生活にもとづいて発見されたのであって、希望的観測から作られた法則ではありません。

さて、私がユダヤ人であるというデマにたいして私は質問を受けてきました。私の始めの二種類の著書の中（注。〝空飛ぶ円盤実見記〟と〝空飛ぶ円盤同乗記〟）には私の自伝の一部が載せてありますので、それを読んだ方は私の素性がわかるでしょう。ヨーロッパ旅行で私は右と同様の質問を受けました。私と秘書（注。ルーシー・マクギニス）が別れた後も多くのデマが流されました。私がユダヤ人であるために彼女が離れ去ったというデマです。これらはみな正しくありません。たとえ私がユダヤ人であったとしても私にはそれを誇るべき理由があります。歴史上の多数の偉人はユダヤ人でした。イエスでさえもユダヤ人です。

今日三十枚の銀貨でイエスを売っているのはユダヤ人ではありません。それはいわゆるキリスト教徒です。彼らはクラカーをほしがりながらしかもクラカーの栄養価を知らないオームのようなものです。キリスト教徒は神の言葉を語りますが、その真髄については何も知りません。知っていれば世界の状態は今日のそれとは異なっているでしょう。

次のようにいう人があります。「この地球と同様に他の諸遊星でも人間がどんどん生まれるならば、宇宙はまもなく超満員になるのではないか」と。答は「ノウ」です。永遠の生命を得る可能性を示さない人は除去されるという法則があるのです。これについては先にも簡単に述べましたが、次の言葉はこの法則について言及したものです。「自分の魂を惜しむ者はそれを失い、自分の生命を失う者は永遠の生命を得るだろう」

この言葉の意味は、自分のエゴを保とうとする者は宇宙的な永続性を得るためのすべてのチャンスを失うけれども、自分のエゴ（個人的な意見）を捨てる者は永続する生命を得るということです。それは海洋と一体化するために落下する一滴の水滴に似ています。その場合は個別化された形あるものとして存在しなくなるのです。

あなたをも含めていったいどれほどの数の人が永遠の生命を確保しているか知っていますか。これには自分自身を〝至上なる英知〟の意識のなかに没入させることを必要とします。それ以外に方法はありません。

これが真実だとすれば〝生まれかわり〟はどこで具体化するのでしょう。これには恩恵の法則があって、人間は十五度またはそ

れ以上のチャンスが与えられるのですが、もしそのあいだにゴールにむかっての進歩がなければ、諸元素はもとの位置に返って他の物体によって用いられます。そうなると完全な記憶の喪失が起こります。記憶をもたない人間とは何でしょう。本人は全くのゼロに等しい存在です。永遠の生命を得るとは宇宙的な記憶をもつことです。これまでに述べてきた〝絶滅〟とは個人の正体を忘れてしまうかまたは記憶を失ってしまうことにほかなりません。

私はこれまでに次のような質問をいく度も受けました。「研究者は自分の力だけでゴールに到着することができますか？」できません。研究者も教師も両方とも教師なのであり両方とも研究者なのです。なぜなら研究者は自分が受け入れようとする知識を教師から引き出し、かわって教師は何かの記憶または知識を研究者から引き出すからです。人は書物を読むことはできますが、わき起こってくる質問を書物に発することはできません。だからこそ多数の質問が郵便で私に送られてくるわけです。これらの質問は私の意識的な心がもっていることに気づかなかった表面へ知識と事実とを引き出します。これは永遠へむかって進歩するための最も早く最も確実な方法です。

今秋私の仕事を遂行したならば私は円盤の分野から手を切るつもりです。（注。ア氏からの最近の連絡によると氏は季刊による円盤と宇宙哲学の啓蒙誌を出す予定とある）われわれがよき世界と永遠の生命とを望み、他の遊星の人々によって与えられた教えから何かの恩恵にあずかるためには、その教えを研究してそれを応用しなければなりません。

ハニー氏は私の仕事に参画しません。彼は私とは別に自分の仕事を続行するはずです。彼は彼の仕事を続け私は私の仕事を続けます。

今秋私は円盤を撮影したカラー映画のフィルムを携えて国内最後の講演旅行に出かけたいと思っています。このフィルムの映写を希望される国内の各団体はすぐ照会して下さい。できることなら各講演会の出席者は五百名以上が望ましく、早めに準備を始められれば好都合です。

目下ケアリフォーニア州ヴィスタに設立本部をもつ〝生命の科学〟学園は適当な場所がきまり次第に始められる予定です。

これまではメキシコを希望していました。現在デンマークのハンス・ピーターセン少佐がこの計画の責任者になっています。これに参加希望の方にたいしては場所が見つかるまで忍耐強く待って下さいとお願いしておきます。

ハニー、アダムスキーの後継者となる

アダムスキー氏は九月から宇宙人の協力のもとに新しい分野の仕事を始めることになり、多忙のために今後しばらくのあいだハニー氏の〝サイエンス・パブリケイションズ〟ニュースレターへの執筆を中止することになりました。これにかわってハニー氏が円盤・宇宙人問題のPR活動を続けるということで、ハニー氏の

機関誌十月号に左のような記事が出ています。

「アダムスキー氏からGAPの仕事を私が引きついだ当時より注。一九六一年八月二十四日付でこれを声明した）六か月以前に私は宇宙人と面とむかってコンタクトしましたが、そのとき私がア氏の仕事の後継者に選ばれていることを相手から知らされました。その後六か月たってから私は直接にア氏より右の声明を受けとりました。そのコンタクトの現場にはア氏はいませんでしたし、私が他のコンタクトを行なったときもア氏はいませんでした。（ハニー注。ただし本号〝質疑応答〟中の質問10に述べてあるような例外が一つあります）したがってア氏の交替声明が到着したとき、それは私がそれ以前に宇宙人から聞かされていた後継者選任の件の確証であったわけです。

私は自らア氏を押しのけて自分がその地位についたのではなく、引きつぎ計画は二年前に宇宙人によって私に示されたのです。無能のゆえに私が排除されない限り、私を選んだ宇宙人たちの目的に従って計画を遂行するよう最善をつくすつもりです」

以上の記事はハニーがアダムスキーのティーチング活動とは別個に出版・連絡活動を行なうことにしたという意味です。これについては今年八月二十七日付でアダムスキーがウィーンのGAPリーダー、ドラ・バウエル女史宛に送った手紙にも明記してあります。以下はその一節です。

「キャロル・ハニーは依然としてGAPの一員ですし、今後もそうでしょう。ただ彼は私の受けもつ部門とは別個に彼の部門を遂行するというだけのことです。私の部門はここ数年間中止していたティーチング（教えること）です。一般人がよりよき世界にそなえて自身を準備する方法を教えられない限り、世界はよくならないでしょう。ブラザーズ（注。進化した遊星から来た人々）の教えは私たちがこれまで地上で受けたいかなる教えともはるかに異なります。というのは、それは宗教的なタイプの教えではないからです。しかしその教えには地球の宗教や他のあらゆる生活面が関係します。あなたと同様に米国以外の国の人々のためには通信講座を設ける予定です。（注。これはハニー氏のテレパシー講座とはちがう）ブラザーズは彼らの出した試験問題を採点することによって彼らの進化の段階を高めるでしょう。ですからブラザーズもこの指導計画に関係することになります。あなたが私の個人講演を望むなら少し金をためて私を呼んで下さい。そうすればこちらも用意しておきます。

未来に何が起こるか、いかなる変化が発生するかはだれにもわかりません」

アダムスキーが神すなわち創造者の属性としての〝愛〟という言葉を全然使用しない理由をドラがたずねたらアダムスキーは次のように答えました。

「私は自分の書く文章に〝愛〟という言葉を用いません。これはその言葉が悪用されていて、創造者の意識を充分にあらわしていないからです。創造者の意識の真実の意味は〝慈悲〟です。自分という思いをなくして物事を行なってごらんなさい。それがほんとうの愛です。あなたが一呼吸するごとに創造者はそれにたいして感謝を要求しますか。あなたが他の何物を得ても創造者は感謝を要求しません。創造者はあなたに〝贈り物を与えるのだ〟という考えなしに、ただ与えているだけです」

次にドラはアダムスキーもハニーも全く同じことをあれこれと言葉を変えて表現し続けていることに少々不満を洩らしました。

「同じ事柄をいつも同じ言葉で表現するのは創造者の目的に反することになります。宇宙的な想念をもって生きようとする私たちはいかなる文章の意味をも理解しなくてはなりません。

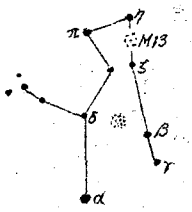
そうです。〃センスマインド〃というのは〃エゴ〃すなわちイエスのいう肉欲です。（注。これはセンスマインドに関するドラの質問に答えたものです）それは肉体と同様に物質でできています。そして肉体と同様に破壊されるものなのです。それはしばしば魂と呼ばれています。〃大霊〃というのは〃宇宙の魂〃であって、万物とセンスマインドを生み出した〃創造者の魂〃と同じもので、センスマインドは肉体の心すなわち個人の心として知られています。あなたは他人の想念を知ることができますか。他人の想念というものは言葉になって口から発せられない限り、知ることはできないでしょう。想念は肉体の心の一部であって、それは肉体と共に生まれた〃肉体の心〃の魂です。そして物質の肉体の一部でもあります。個人には二つの魂があります。センスマインドと大霊であって大霊は創造者の魂と同じものです。大霊はほとんど研究されません。これは肉体の魂がそれ自身に夢中になっているためです。以上のすべては全く新しい知識です。しかし私たちは新しい世界と新しい生活に入ろうとしています。古い物事は私たちをこの点にまでもたらしました。私たちが生活の新しさを楽しもうとするならば、いまはその古いものをあとへ残さねばなりません」

編者注。　ウィーン在住のドラ・バウエル女史はヨーロッパで最も活躍している女流円盤研究家の一人で、世界GAPリーダーのなかでも重要な人物です。私の手もとにはドラがスイスのリーダー、ルウ・ツィンシュタック女史と一しょに写っている写真がありますが、年令は五十四、五才と思われます。

一昨年九月に九大農学部の塩谷勉博士がヨーロッパへ出張されました折、ウィーンでドラに会見されました。同年九月二十三日付でドラがよこした手紙には、そのときの模様を次のように記しています。

「当地ウィーンでシオヤ博士にお会いできたことを心からうれしく思います。（注。よほどうれしかったとみえて、この部分がかなり強調してあります）氏のスケジュールはぎっしりとつまっていましたので、二度も私の家へ来て疲れなければよかったがと思っています。最初私は留守をしていたのです。―中略―私たちは互いによく理解し合いました。氏は私の部屋のふん囲気が『すてきで居心地がよい』と語りました。それをうれしく思います。私はリチャード・オグデンに関するある事柄を話しましたが、それについては―以下略」なお塩谷博士はスイスでルウにも会っておられます。

質疑応答



C・A・ハニー

問 1 〝フライイング・ソーサー・フロム・マーズ〟（火星から来た空飛ぶ円盤）の著者セドリック・アリンガムに関する何かの情報を与えて下さいませんか。（注。〝続空飛ぶ円盤実見記〟と題する邦訳版が高文社から出ている）ずっと以前に〝フライイング・ソーサー・レヴュー〟誌の依頼を受けて私は右の著書の出版社へ照会したことがあります。するとアリンガムはスイスで死んだという返事がありました。ところが彼の死については記録がないとも聞いています。アリンガムは著書のなかで、アダムスキー氏に会うためにケァリフォーニアへ行きたい、そしてそこで研究をしたいと書いています。彼は実際にケァリフォーニアへ行ったのでしょうか。（モントリオール、R・W・G・アンスティー）

答 私の知る限りではアリンガム氏は米国へ来たことはありません。スイス在住のアダムスキー氏の協力者が調査しましたが、アリンガム氏がスイスで死んだという記録は発見できませんでした。私はこの件に関する正確な情報をもっていませんし、生きているとしても現住所を知りません。彼は沈黙させられたのかもしれませんし、あるいはただ姿を消そうと決心したのかもしれません。

問 2 アダムスキー氏はテレパシーは化学作用であるといっています。これはどういう意味ですか。またこれはイエスのいった「口に入るものは人を汚すことはない。かえって口から出るものが人を汚すのである」という言葉にどのように適合しますか。（デンマーク、C・A・R）

答 あなたのいわれるイエスの言葉というのは、食物に関するモーセの法則が誤っていることを示す法則です。すなわち人間は食物と考えられるものなら何を食べてもよいのであり、それによって健康を得るという意味です。人間は菜食主義者になる必要はなく、精神的に向上するのに特定なものを食べる必要もありません。人間を汚すのは食物ではなくて、まちがった想念をあらわす言葉なのです。ある特定なものを食べることが正しいか誤っているかを思いわずらうかわりに、新しい生命観とある種の再生とを必要とするのだということをイエスの言葉は示しています。

人間の心は化学作用によって働きます。そして心はテレパシー現象が発生する際に道具として用いられます。現在科学者はこれについてほとんど知っていませんが、想念が化学作用によりどのようにしてわき起こるかという問題は解明されつつあります。

一例をあげますと、一九五九年にスエーデンの神経生物学者ホルガー・ハイデンは、記憶や学習は細胞のリボヌクレイン酸の生産の変化によって起こる事実を発見しました。リボヌクレイン酸は発生する指令の媒体です。

この説の実験による証明がミシガン大学の心理学者ジェイムズ・マコーネルによってなされました。彼はまず扁虫を電気ショックに反応するような状態にしておき、それをひいてつぶし、電気ショックに反応しない扁虫に食べさせました。するとその虫たちは食物となった扁虫と全く同様に反応し始めました。リボヌクレイン酸が知識を伝達するための媒介物質であることをマコーネル

が発見するまでには二か年かかりました。

他の科学者でネズミの脳細胞を分析して、ネズミが一定の知識を習得したあとは細胞のリボヌクレイン酸が三十五パーセントも増加したことを発見した人もいます。このときさらに驚くべき事実が判明しました。複雑な化学物質の合成の基本的な変化も起こっていたのです。リボヌクレイン酸の変化はその結果肉体のたんぱく質の生産の変化を起こしますので、科学者のなかにはたんぱく質は想念を生み出すための化学的な基礎をつくると考えている人もあります。

要するに人間の脳中の想念や記憶の貯蔵は化学作用によって起こり、そして脳はテレパシーで用いられますので、テレパシーは化学作用であるというわけです。

問 3 〝生まれかわり〟はある種の宗教で認められており、そしてアダムスキー氏によれば宇宙人もそれについて語っていて、特別なかたちでそれを認めているということですが、〝生まれかわり〟の概念はいつごろ起こったのですか。そしていかなる法則によるものですか。（デンマーク、C・A・R）

答 私の知る限り〝生まれかわり〟の概念は古代に失われました。約五万年前にさかのぼる地球の古代の記録には、宇宙人によって述べられたのと同じ生まれかわり説が含まれています。この記録はガイド及びヘルパーとして地球へ来た他の遊星の人間からこの知識を伝えられたとなっています。ジェイムズ・チャーチワードのミュー大陸に関する文献を参照して下さい。

〝生まれかわり〟の法則は創造者から放射された宇宙の法則です。これらの法則の一つは、物質またはエネルギーは完全に破壊されないで、ただ形態が変化するだけだということを意味します。たとえば木片を燃やすならばその形態を形成していた原子は破壊されないで、こんどは灰や煙やその他のガスなどを形成します。

同様にエネルギー（フォース・フィールド）は破壊されることなく、ただ形が変化するだけです。形態の奥にある知性であるところの力は死によって破壊されません。それは別な〝家〟を求めるために解放されるだけで、その〝家〟は力が表現する乗り物として役割を続行します。これを別なふうに説明すれば、〝魂の心〟すなわち〝大霊〟を形成するエネルギーは破壊されないで、それは自体を表現し得る一つの形態をもつ必要があるのであって、それゆえエネルギーは一形態を建設し、それを通じて表現します。一肉体が消耗されるとそれは別な肉体を建設するのです。

問 4 私は最近ディノ・クラスペドン著の〝円盤とのコンタクト〟を読了しましたが、そのなかに木星と土星には人間がいないと述べてあります。これはアダムスキー氏の言明に相反するように思われます。また著者は円盤の機長から円盤の推進法は機体の外部に意のままに真空状態を作り出す能力にある旨を聞いたといっています。これもくいちがうことになります。意見をお聞かせ下さい。（ミネソタ州、B・P）

答 クラスペドンの著書はアダムスキー氏の書物が刊行された後に出された創作物語の一つです。著者は事実だと主張していますが、多くの個所で馬脚をあらわしています。たとえば、真空状態を作り出すことによって飛ぶことが可能だとすれば、機体は大気圏内しか飛べないことになります。空気のない宇宙空間では役に立たないことになります。

この著書のなかに見い出される真実の知識のいくつかはすでにア氏の書物中に述べてあることばかりです。そしてクラスペドンの書のいわゆる科学的な解説のほとんどは今日流布されている時代遅れの科学的知識に基づいてでっちあげられた記事です。

問 5 聖書によれば聖霊は人類のために未来のガイドたるべく来たとあります。宇宙人はそれについてどのようにいっていますか。（デンマーク、C・A・R）

答 西歴三二五年にコンスタンティン皇帝は各種教会のリーダー間に起こっていた教義上の議論を統一するためにニカイア公会議を召集しました。そしてこの会議で神は父と子と御霊の三位一体であると布告されました。しかし実際には聖書は神が三位一体であるとは教えていません。ヨハネの第一の手紙五・七をあげますと、次のように述べてあります。「あかしをするものが三つある。父と言葉と御霊である。そしてこの三つのものは一致する」これは古代の原典にはなかった句で、八世紀に翻訳者がつけ加えたものです。

聖書が教えているのは、神とは一つの〝家族〟であり〝天国〟であり、限定された三位一体ではないということなのであって、また人間はその〝家族〟の一員になる可能性を有しているということなのです。人間が従わねばならぬ聖霊とは実はわれわれが宇宙の法則と呼んでいる神の法則なのです。いいかえれば、それは万人の内部に宿る神の火花なのであり、〝魂の心〟または〝大霊〟の一部分です。それは正しい道に沿って万人を導くところの、人間の内部に宿る小さな声です。

問 6 極小型の観測用円盤について。これらの円盤の色が変化するのは観測されるものの想念を反射しているのですか。（アーカンソー州プラマヴィル、L・F）

答 宇宙機の周囲のイオン化されたガスの色の変化は、宇宙機の周囲に発生するフォース・フィールドの強度の変化によって起こります。

しかし極小型円盤を放つ母船内には観測台があって、そこにはテレビのスクリーンによく似たスクリーンが装置してあります。これが色ばかりでなく各種の方法で極小型円盤から送られる信号を解読するのです。

問 7 宇宙人との無電によるコンタクトについて多くの例が伝えられています。この方法がコンタクトにおいて用いられたことがありますか。（L・F）

答 この方法は全く可能性がありますけれども、かつて用いられたという例を私は知りません。こんなコンタクトは起こりそうに思われません。なぜなら宇宙人はいつも地球人のあいだにまざって住んでいますので、実際には無電連絡に頼る必要はないからです。同様の理由で宇宙人にとっては心霊的なコンタクトを行なう必要もありません。非倫理的な人々だけがこうした方法を用いるでしょう。人を容易にだまして物事を信じさせることができるからです。

多数のまじめな人が非倫理的な人々によってだまされてきましたが、この悪人たちのなかには私が〝堕落宇宙人〟と名付けている人々が含まれています。（これについてはかつて掲載された〝円盤問題における心霊的な詐欺行為〟を参照して下さい）この〝堕落宇宙人〟というのは地球上に長く住んでいて地球人の低劣な

思想に染まってしまった人々です。さいわいにもこうした人は少なくて、地球上に長くとどまっている宇宙人のほとんどは宇宙の法則のもとに生活しています。

この非倫理的な人々によって応用されている方法はきわめて巧妙であって、大いに催眠術を用いており、またたいていの心霊的コンタクト、無電によるコンタクト、その他種々の方法による自称コンタクト例の原因をなしています。イカサマがひろがっていますから気をつけて下さい。未来に起こるあらゆるコンタクト例についてはきわめて注意深く判断することです。

問 8 各地に原因不明の怪火やよう火が出現するという報告があります。例をあげるとノースキャロライナ州の有名な〝ブラウン・マウンテン・ライト〟などがそれです。これは何かの自然現象ですか。それとも観測用円盤ですか。（L・F）

答 私はこの特殊な例についての情報をもっていませんが、他の類似現象の体験に基づいて、この現象の大多数は自然現象であると思っています。

問 9 かつて掲載されたあなたの〝幽霊現象〟に関する説明に述べられたのと同じ方法を用いて、ある音響の記録を一定の地域にとどめることは不可能ですか。たとえば戦場の物音などはどうでしょう？（L・F）

答 あなたは正しいアイデアをもっていますけれども、〝ある音響の記憶〟という言葉は誤解されやすい言葉です。なぜなら何らかの手段によって何かの出来事を保持するのは、ある意味で〝記憶〟であるからです。常に発生しているあらゆる出来事は、その地域の物体（複数）の細胞または事件の影響を受ける分子によってこの種の記憶として保持されます。これがいわゆる〝アカシック・レコード〟の存在する一理由です。

細胞はそれ自体がもったことのあるすべての体験の記録をとどめる能力をもっています。適当な条件下にあれば細胞は、事件を精神的に体験しようとする傾向のある〝感受性の強い〟人へ、その知識をもと発生したときと同様に可視的に可聴的に伝えることができます。これについての詳細な説明は目下開始されているテレパシー通信講座で述べる予定です。

問 10 あなたからいただいた手紙類に目を通しているうちに、私はあなたが政府と秘密関係にあるということに気づきました。どうしてこんなことになったのか説明して下さいませんか。また同じ手紙でアダムスキー氏があるとき宇宙人とコンタクトしているときにあなたも現場に居合わせたといっています。これはあなたが宇宙人から招かれたのかそれともア氏があなたを連れて行ったのか知りたいと思います。後者が真実であるとするならば、宇宙人はそれについて何をいう必要があったのですか。（ノースキャロライナ州シャーロット、M・S）

答 私はある研究所に勤務しています。したがって私の関係というのは仕事に関することだけです。あとの質問については次のとおりです。あるときア氏と私は講演旅行に出かけていました。私は自分の車に氏を乗せて運転していました。私がそのときのコンタクトに含まれたのは明らかに宇宙人側の選択によるものでした。さもなければ彼らはコンタクト前にア氏が一人きりになるのを待ったことでしょう。このコンタクトについてはこれ以上詳細に発表しないつもりです。

聖書の再検討

——それは事実か——

C・A・ハニー

今日多数の人々は真実を発見することに関心をもっています。神話などに興味はなく、多くの宗教団体の主張を証明する事実や科学的な解答を求めています。多数の教会や宗教団体は聖書こそは〝霊感による神の言葉である〟と称していて、聖書中の句読点や疑問符までも霊感によって記されたものであると主張しています。米国の無数の国民にとってはキング・ジェイムズ聖書（注。欽定訳聖書。一六一一年英国王ジェイムズ一世の裁可によって編集発行された英訳聖書）が唯一の真実の聖書であって、その他の聖書のすべては巧みにでっちあげられたホンモノの代用品にすぎないということになっています。事実はどうでしょう？

実際には、現在われわれの知っている聖書というのは神学者がここぞと思う個所を聖書に立証させるために、彼らが重要なキーとなる語句を削除したり、よけいな文句をつけ加えたりして手が入れてあるのです。

過去の記事で私はイエスなる人は金星から来て地球上で自然の肉体的な誕生をして（または幼児のときに宇宙船で地球へ連れて来られて）金星にいたときの前世で学んだ哲学を教えた人であると述べました。しかしイエスが実際に説いた教えはごくわずかしか伝えられてはおらず、あったとしてもそれは今日のイエスの教えとして教会が奨励している教えの類似物にすぎません。

一読者からイエスは神の子であったのかという質問を受けたとき、私は「人間はみな神の子、すなわち創造者の子であって、イエスと同じ潜在能力を有している」と答えたことがあります。イエスは「あなたがたが神だということに気がつかないのか」といってこのことを証言しました。イエスが〝神の子〟であるという記述からして宇宙の神そのものであったという考え方は聖書から発したのではありません。（注。本誌旧号に連載の〝現代の宗教の起源〟を参照）それではイエスが〝神の子〟であると述べている聖書中の文句についてはどうでしょう？

欽定訳聖書の使徒行伝の第八章に一人の男がピリポにむかって自分がバプテスマを受けてよいかと尋ねる個所があります。第三十七節のピリポと男との対話は次のとおりです。

「これにたいしてピリポは『あなたがまごころから信じるなら受けてさしつかえはありません』といった。すると彼は『わたしはイエス・キリストを神の子と信じます』と答えた」

この三十七節全部は偽作なのであって、ある論点を明確にしようとした学者たちによって挿入されたのです。しかしこれは聖書を権威づけることにはなりませんでした。この個所は米国標準訳の改訂版、新訂標準訳などから削除されています。というのは、この個所は四部からなるギリシアの最古の原典及び四世紀のヴァティカン写本とシナイ写本、五世紀のアレクサンドリア写本とエ

フラエミなどに出ていないからです。

その個所が最初に出てくるのは、プロテスタントによって用いられる欽定訳聖書に比肩すると考えられているローマ・カトリック新約聖書である一五八二年版リームズ訳です。そこで三十七節は五世紀から十六世紀までのあいだに使徒行伝の第八章につけ加えられたということがわかります。最新のカトリック新約聖書（一九四一年コンフラターニティー改訳版）は第三十七節をカッコでかこんで、ギリシア原典とヴルガタ聖書では削除されているという注を付しています。

エノク書は完全な書物の一例で、これはイエスや使徒たちに用いられたのですが、〝死海の巻物〟のなかに写本が発見されるまでは長く埋もれていました。現代の聖書でエノク書から引用されているイエスや使徒たちはエノク書の教義を採用し、それをパウロが広範囲に応用したのです。

エノク書は西暦三二五年のニカイア公会議まで教会で正典として用いられましたが、その後次第に敬遠されるようになりました。これはその書がイエスが神であるという考え方に逆行したからです。四世紀からその書は次第に信じられなくなり忘れ去られてしまいました。

初期の聖書中には収めてありながら現在は削除されている二十一章からなる書物は〝バルナバの手紙〟です。その起源はだいたい七〇年から一一七年までのあいだとされています。最古の教会のなかにはそれを正典とみなしたのもあり、それは旧約及び新約を含む聖書の最古の最も完全な原本であるシナイ写本に見られます。シナイ写本のなかでバルナバの手紙はまさしく新約の一部をなしていて、ヨハネの黙示録のあとに収めてあります。

以上の事実はまだ序の口にすぎません。〝死海の巻物〟の多くは山上の垂訓やその他イエスが述べたと伝えられる各種の教えを含んでいますが、実際にはそれらはイエスが出現するよりもはるか以前に書かれたものなのです。

といってもなにも私が聖書をダメにしようとするものではないことをご理解下さい。われわれが聖書のもとの真の記述にまでさかのぼってゆくならば、それは多くの知恵を含んでいて、現在宇宙人によってこの地球上で遂行されている計画を予言類のなかで描写していることがわかります。

人間はいったい真実を求めているのでしょうか？　求めているとするならば誤りを見い出した場合にそれを認めることや、信念にまちがいがあることを示された場合にそれを受け入れることなどは全く自分自身にかかっているということになります。

ある人が最近次のような手紙をよこしました。「聖書中にいかに多くの誤りやこじつけ、ウソなどがあるにしても、やはり学ばねばならぬ多くの事柄が含まれていると信じます」まさにそのとおりです。これは私が常に強調してきたことです。そしてこれこそわれわれがいま行なっている事柄なのです。だからこそ私はトーマス・ペインの〝理性の時代〟及びチャールズ・ポター博士の〝イエスのなぞ〟のような書物を推薦するのです。

さて欽定訳聖書にきわめて多くの誤りがあるという事実をどのように説明すべきでしょうか。その答は簡単で、否定できません。ジェイムズ一世の欽定訳聖書は実際には第七番目の英訳聖書で、第三番目の欽定訳聖書なのです。ジェイムズ一世新約が翻訳され

たとき学者はきわめて貧弱な誤りの多いギリシア語本を用いました。これよりも一千年以上も古い三つのすぐれた原典は入手不可能であったために参照できなかったのです。この理由は、アレクサンドリア写本とシナイ写本は東方教会に保存されていて、ヴァティカン写本はローマに秘蔵されていたためです。このいずれもプロテスタントには入手不可能でした。

この結果一八八一年に改訂新約が書かれて、もっと正確な原典に比較して訳されたとき、確実とされていたギリシア語原本から約六千個所の訂正が行なわれました。この改訂のうち約二十五パーセントは実際に文章の意味を変えていました。これは記録として残っています。

さいわいにも過去数年間宇宙人による活動の発展以来、われわれは聖書の原典を理解するための新しいキーを授けられつつあります。原典中の記事の多くは宇宙人によって与えられた新しい知識なくしては思うように理解することができません。理解にたいしてかつてなされたいかなる努力よりも、真実の意味にもっと近づいてくるであろうところの宇宙時代の解釈はいま可能なのです。

私は近いうちにこの問題の新しい事実に関する記事を提供するつもりです。

セルミナラ博士の哲学

C・A・ハニー

一九六三年八月二十二日に私はジーナ・セルミナラ博士の講演会に出席しました。演題は〝生まれかわり〟です。会場はケァリフォーニア州サンタアナのフレンチストリートにあるユニティー教会でした。出席者数がどれくらいであったか知りませんが、大きなホールで満員の盛況でした。

私がこの記事を書く理由はセルミナラ博士の行なった講演に非常な感銘を受けたからです。それで彼女の了解を得た上で講演内容の一部をお伝えすることにします。彼女の考え方は宇宙人の哲学と一致していますので充分に考慮する価値があります。

彼女がきわめて巧みに述べた要点の一つは次のとおりです。

「生まれかわりを信じることは〝死の恐怖〟をなくすことである。生まれかわりを信じる人は未来の新たな生活をもつことや、死とはただ一つの肉体から別な肉体へ移動することにほかならないことを知っている。またこの人たちは来世の環境は今世の生き方できまることに気づいている。そして彼らは善き生活を生きようと努力すること、今世において人格と徳義とを発達させることなどにたいして健全な実際的な理由をもっている。この例としては今日黒人をひどく圧迫している南部の白人をあげることができ

る。もしこの白人たちがカルマの法則と生まれかわりを信じていたならばもっと善良な人間になり、黒人を白人と同様に扱うだろう。なぜなら黒人を圧迫すれば本人は来世において黒人に生まれかわり、苦しみながら寛容の法則を学ぶことになるであろうということを知っているからである」

この哲学は筋が通っていて合理的で実際的です。たとえ真実でなかったとしても理想的な思想であるといえるでしょう。この哲学の美は、生と死にたいする真実の解答が何であるかをわれわれはこれ以上考えたり悩んだりする必要がないという点にあります。これにたいしては宇宙人が解答を与えていて、生まれかわりが事実であるという確証をもっていますが、それをどのように考えるかはわれわれ次第です。

セルミナラ博士はもう一つの重要な要点を出しています。

「人間はたとえ九十才になり、老い先が短くなったと感じても科学と知識の各種の面を研究することは必要である。なぜか？来世にそなえて自己を改善することになるからである。今生において耐え忍んだ体験はすべて来世において基礎として役立つのである。六十五才を過ぎて『何の役に立つのか』と感じるとしても本人は新しい事実と考え方とを知ることによって実際には何かを達成しつつあるのだということを知るべき理由をもつであろう」

読者が考古学、天文学、またはエレクトロニクスなどを学びたいと思っていても、自分は年をとりすぎているためにそんな勉強などしても何にもならないと感じるならば、ジーナ・セルミナラ博士の忠告を受け入れて、そのすべてを学ぶとよろしいでしょう。たとえ晩年の学問が今生で無益であったとしても、来世で必要な基礎をきづくのに役立つでしょう。このことは私が提供しつつある教育的な企画の一面でもあるのです。

セルミナラ博士はカルマの法則についてかなりの時間語りました。多数の人は人間の顕在意識をこえたこの法則について考えることができません。しかしカルマの概念は聖書に見えています。「他人を審くな。自分が審かれないためである」「自分でまいた種子は自分でかりとらねばならない」

ここにセルミナラ博士がその著〝多くの館〟の七十五ページに述べている言葉をあげてみましょう。

「生まれかわりの法則は、神の意志が実際宇宙の一要素であるかもしれないけれども、しかしそれは気まぐれやわけのわからぬ目的なのではないということを示すことによって、罪のない人々の苦悩や肉体的欠陥のごときディレンマを解決するものである。それはむしろ聖霊の意図の一法則であり、それによって苦しまねばならぬ人だけが苦しむのである」

あなたの現在の生命の哲学が宗教的なものであれ他のものであっても、それがあなたの内部に感じる空虚感を満たすことなく、地上に生をうけた理由または目的に関する疑惑を晴らさない場合は、生まれかわりの真の事実を調べて、それが真実か虚偽かを自分で決定することです。この問題に関する良書は多くありません。最良の書は左記のとおりです。

ジーナ・セルミナラ博士著〝多くの館〟〝内部の世界〟〝多くの生活、多くの愛〟

メンゼルは科学者にあらず

C・A・ハニー

ニューヨーク州ガーデンシティーのダブルデイ社から、ドナルド・メンゼル博士の新著を書評用に送ってきました。ライル・G・ボイド夫人との共著になる〝空飛ぶ円盤の世界〟（副題＝宇宙時代の神話の科学的調査）と題するこの書は全然科学的な内容を有するものではありません！　それは正直な調査でもなく、私はその証拠を二、三あげたいと思います。

私はこの書物を取り次いではいません。（注。ハニー氏は多数の有益な図書を取り次ぎ頒布している）私に注文してはいけません。卒直にいえば、この書が正確な報告で正直な内容のものであるならば、たとえ円盤現象を否定するために書かれたものであったとしても私はそれを取り次ぐでしょう。もっとも、空中にしばしば見られる各種の現象を述べて多くの説明が専門的に与えてありますので、この理由からすれば観測者が自然現象と真実の円盤とを区別するのに価値があるかもしれません。

しかし私はその故意の省略と誤った説明を科学的とも正直であるとも思いません。全編を通じてそれを見い出せるからです。まずこの本で取り扱っている問題について執筆者自身がほとんど知っていないと私は思いました。しかし彼はＵＦＯに関する空軍の資料のすべてを所有しているといっていますし、少なくともプロジェクト・ブルーブック（注。米政府のＵＦＯ調査計画の一端をなすもの）の資料すべてに目を通すことを許可されたといっています。これがほんとうだとすれば、読者は次の個所をどのように思いますか。

百三十六ページと百三十七ページにフロリダの〝ボーイスカウト隊長事件〟を説明して、次のような結論に達したとあります。「連邦検察局からの調査報告によれば、帽子の焼け跡はタバコの火で発生したことを示しており、手や腕の火傷は毛髪の表面的な焼け焦げにすぎないことが判明した。こんなことは台所のマッチの炎で簡単に起こり得ることである」そしてメンゼルの結論は「疑いもなくインチキだ」というわけです。（注。右の事件はフロリダ州で着陸した円盤に接近したボーイスカウトの隊長が円盤のフォースフィールドを浴びて全身に火傷を負い死亡した有名な事件。〝空飛ぶ円盤同乗記〟の百三十九ページにこの記事がある）

ところがここに米空軍が発見した別な事実があります。これはメンゼルの著書の内容とは完全にくいちがうものです。というのは空軍の調査報告を入手したと称するメンゼルの発表内容とは異なりますし、第一それをメンゼルが〝台所のマッチ〟だとは説明し得ないからです。プロジェクト・ブルーブックの前責任者であった米空軍のエドワード・J・ルッペルトの著書のなかに、米空軍が実際に発見した事実を知るという立場において、次の個所を見い出すことができます。（ルッペルト著〝ＵＦＯに関する報告〟

の二百三十四ページから二百四十三ページまで）「状況は本人の鼻孔の内側も焼けていることを示していた。その火傷の程度は軽い日焼けくらいと見てよいだろう。毛髪も焦げていたが、それはフラッシュヒートを示していた」続いて彼はその焦げ跡はタバコ点火用のライターで発生したものかもしれないと述べています。しかし現場ではマッチも花火も照明弾のカスも見当りませんでした。しかも円盤がいたと思われる位置の草は焼けていなかったのです。

「正直にいうとわれわれはこの事件がインチキであることを証明しようとしたが全然だめであった。新しい手がかりをつかむごとに同じ結果を示した。結局この円盤による負傷事件は真実なのである」とルッペルトはいっています。彼の説明によると、連邦検察局の調査報告が返ってきたとき、その報告には隊長の火傷は〈おそらく電気のスパークによるものらしい〉と記してあったということです。連邦検察局はメンゼルのいうようなタバコの火だとはいっていません。

すると事件の核心が浮かび上がってきました。これについてメンゼルはこの物語をインチキだと速断しようとしてこの核心を完全に無視しています。円盤がいたあたりの草は焼けてはいませんでしたが、草の根が焼けていることを連邦検察局は発見したのです。局はこの実験を試みた結果、根まで焼くのには華氏三百度を必要とすることが判明しました。円盤がいたと報告された場所には円形の範囲内の草の根が焼けていて、しかも長い草の先端も焦げていたのですが、原因は全然不明となっています。

ルッペルトの結論としては、これはすさまじい電流が地中を流れることによって起こるインダクションヒーティングのために根が焼けたのかもしれないというわけです。しかしこれに必要な大きな機械が現場にあったという証拠がありませんし、そんなものがあったとすれば当然その跡が残るはずです。そこでルッペルトはいいます。「われわれはその事件がインチキかもしれないと仮定して多数のトリックを考えてみたが、全然くつがえすことはできなかった」米空軍の歴史的な結論は次のとおりです。「円盤研究史上最もすぐれたインチキだ」

メンゼルはさらに重大な誤りをおかしています。彼の著書の二百三ページにアダムスキー氏をとりあげていますが、それについて次のように述べています。「証拠としてアダムスキーは葉巻型の物体、地平線に白い物体の見える岩石の丘の中腹、ジャケットと長グツをはいた背の高い男の後姿などを撮影した写真を提供している」

これは大ウソです！　アダムスキー氏はこんな男の写真などを提供したこともなければ、こんな写真を撮ったこともなく、これに類似した写真を公表したこともありません。これが科学だというのでしょうか。

またアダムスキー氏の写真は〝ヒナドリの人工ふ化器〟を写したのだと述べてあり、二枚の図をならべて「上図はアダムスキーの金星の円盤図で、下図は人工ふ化器の図である」と説明しています。これも金星の海はセルツァー炭酸水でできていると説く同一人の言葉です。書中の他の部分も同じような虚説とデタラメな陳述に満ちています。私の考えではこの〝大博士〟の頭はかなり狂っているようです。

敵陣突破が近づいた

C・A・ハニー

最近ある情報が一般に公表されたために敵陣突破が近づいたといえるかもしれません。次の情報はベルギーのGAPリーダー、メイ・モーレー女史から送られてきました。これはブラッセルの新聞〝ル・ソワール〟紙に掲載されたものです。記事は二つあって、最初の記事は九月一日付の同紙に載り、次の分は九月二日付紙に出ました。

§§§

ソ連の科学者（複数）の発表によれば金星には球球人によく似た人類が住んでいるかもしれないという。この発見は米ソ二大陣営の宇宙開発計画を変えるものである。

ラジオ・モスコウは金星が酸素を含む大気を有していると声明した。この結果金星には地球人に似た人類が住んでいる可能性がある。ラジオ・モスコウを通じて声明したソ連科学者団は、金星の大気を観測中にスペクトル分析によってこの大気中に酸素が存在することを確認した。科学者団の発表によれば、この事実からして金星の大気の状態は地球のそれときわめてよく似ているという。

この発見は米ソ両国の宇宙旅行計画に重大な影響をもたらすものとヨーロッパでは観測されている。このために月、火星のごとき死の世界と考えられている遊星にたいする〝移住〟計画を両国に断念させることになるかもしれない。そして人類の住む可能性のある遊星の秘密を探求する方向へ両者の努力をそそがせるようになるだろう。

§§§

右の声明について米国がどのような態度に出るかは後になってみないとわかりません。だいたいソ連側の報導のなかには米国の新聞に発表されたのもありますが、完全に無視された部分もあります。奇妙にも報導された記事の一例としては次のものがあります。これはケアリフォーニア州ハンティントンパークの〝デイリー・シグナル〟紙一九五九年九月三十日付に出た記事で

〈ソ連の科学者、宇宙人に会う準備をせよと声明す〉

と題する大見出しのもとに、この銀河系内の十五万に及ぶ太陽系の遊星群に存在する生命の可能性を説いた記事が掲載されました。これは百万単位の恒星群のなかには人類の住む遊星一個をもつ星が一つくらいはあるかもしれないという憶測にもとづいたものです。それに加えて別な憶測が述べてあり、それによると他の遊星群のなかにはすでに宇宙旅行をやっているのがあるかもしれないので、そうだとすれば地球人は友好的な接触をするようにしなければならないというわけです。

先ごろもわれわれは、火星の周囲を廻っている衛星のうちで少なくとも一個は人工的なものだというソ連の一科学者の声明を読

みました。アイゼンハワー大統領の宇宙問題顧問であったフレッドシンガー博士もこれと同じ憶測を提出しました。こうした意見はいったい何に基づいているのでしょう？

火星の衛星の一つであるフォボスは普通ならば考えられないほどの割合いで軌道をそれていることがわかっています。この数十年間にそれは計算された位置から二・五度もはずれました。冥王星の発見者として名高いクライド・トンボー博士は「これは不可解な事実であって、地球の科学の恥である」といっています。

フォボスのスピードは次第に増加し、ちょうど地球の人工衛星のように火星の表面に接近しています。この奇妙な事実についてなんとか説明のつくのは大気が引っぱるのであろうということで、加速にたいする数学的な憶測によれば、その球体は中空でなければならないということになります。

一衛星が自然の産物であるとすれば、その中味がカラッポであるとは考えられません。カラッポであるとすればそれは人工的なものであるはずです。そうだとすればいったいだれが作ったのでしょう？

人工説にたいする反対派の理由は、こんなものを人工的に建造するのは到抵不可能であるということにあります。その重量は約一億トンまたはそれ以上になるはずです。いかに火星の文明が進歩していようとも、その費用は莫大なものになるというわけです。しかし反対派が見落としている重要な点は、火星や金星の宇宙船を推進させるために応用されている重力場をもってすれば重量は問題でなくなり、径数マイルに及ぶ大きな物体でさえも浮揚は完全に可能になるという事実です。加うるに必ずしも地上でなくて軌道上で組み立てができるでしょう。とにかく現在地球で用いられているロケットのすさまじい推力はその場合不必要となるでしょう。

地球人はできるだけ早く月、火星、金星の近接撮影写真を得てそれを一般へ公開すべきです。そうすれば各遊星上の〝新発見の事実〟が実はずっと以前から地球上の少数の人々に詳細に知られていたことが判明して世界は驚くでしょう。

（注。金星の大気に関するソ連の新発見については、国内でも九月一日ごろ新聞、ラジオ、テレビなどを通じて報導された）

（21ページから続く）

ある種の円盤研究誌類はケネディー大統領がときどき宇宙人とコンタクトしたという意味のうわさを流してきましたが、大統領本人が相手の正体に気づいていたかどうかは別として、このことはきわめてありうることです。とにかく宇宙探険、月世界到着競争、核停などに関する大統領の政策は地球上で宇宙人によって展開されている〝計画〟の一部である諸目的と一致します。

現在の世界の混乱にたいする各人の責任をのがれようとして一生懸命になっているのと同じほどに各人が平和のために一生懸命になるならば、戦争の脅威について心配する必要はなくなるでしょう。われわれは他人を非難するかわりに各自の責任を負うべきです。他人を助けることもできず自分をも助けることのできないわけのわからぬ場所へ逃げ出したりするかわりに、同胞を援助しうるように自分自身を教育する必要があると思います。

4万4千マイルにわたる 地割れ

C・A・ハニー

最近この古びた地球はある大地震を起こして、人間に大損害を与え、多数の人命をうばいました。

現在から（注。この記事はハニー氏のニューズレター九月号に掲載されたが、編者のもとへは八月中旬に到着した）今年末までのあいだに大地震がもっとふえるでしょう。われわれはこれらがみな人間の住む土地に起こらないことを望むものです。そうすれば損害は少なくてすみ、死者もあまり出ないでしょうから―。

リヒター地震計で震度六以上の大きな地震は大地震と考えられ、都市で発生すればそれを壊滅させます。震度六以下ならば破壊しても建物の損傷は少ないとされています。

一九五七年にコロンビア大学のモーリス・ユング博士は、海底の地盤に大地割れが起こっていると声明しました。

この割れ目は図に示されていますが、各大陸を通って伸びている断層線は省略してあります。世界の大地震帯はこの図中の大き裂に沿って存在しており、これらのき裂の大きさは信じられないほどです。それは平均二ないし五マイルの深さがあり、幅は二十ないし二十五マイルもあります。割れ目の両側には海底の大山脈が一ないし二マイルの高さにそびえています。

割れ目に沿った多くの場所では爆発が起こっており、新しい海底の山々が形成されています。地球は一大再整理の時期に入っているのです。

海底の地震が陸地の奥で発生する地震よりも多くの破壊と生命の危険をひき起こすことは可能です。その理由は大津波にあります。数年前にメキシコで大地震が発生しました。目撃者はさかまく大波が海岸から遠ざかるにつれて海底が出現するのを見ましたが、そのとき海底が大地割れによってパックリと口を開いているのが目撃されました。するとこんどは大津波が陸地へ返ってきて大破壊が起こり、多数の人が死亡しました。

読者の多くは一九四六年からアラスカ地方に発生した一連の地震を記憶しておられるでしょう。このときわずか二、三フィートの高さの波がハワイにむかって発進しましたが、時速五百マイルというすごいスピードで進行し、陸地に接近するにしたがって波が重なり合い、ついに高さ五十フィートの怪物と化して陸地に進入し、そのあと引きあげるときに村々を根こそぎ洗い流してしまいました。

この波は結局そのまま進行を続けて南半球のオーストラリアやチリーにも到着しましたが、そのときまでにはエネルギーのほとんどを失っていたためにさほどの損害を与えませんでした。

クラカトア火山（注。ジャワとスマトラとのあいだにある東インド諸島中の小火山島）が一八八三年に大爆発したとき、高さ百

三十五フィートの大津波がジャワとスマトラの沿岸地方を襲いました。この波は巨大なものであったので、陸地を数マイルも走り、船までが陸の奥へ流されました。これによって三万人以上もの人命が失われたのです。ヨーロッパの各沿岸までがこの大津波の影響を感じています。この事件の詳細はチャールズ・フォートの著書〝ロー〟に述べられています。

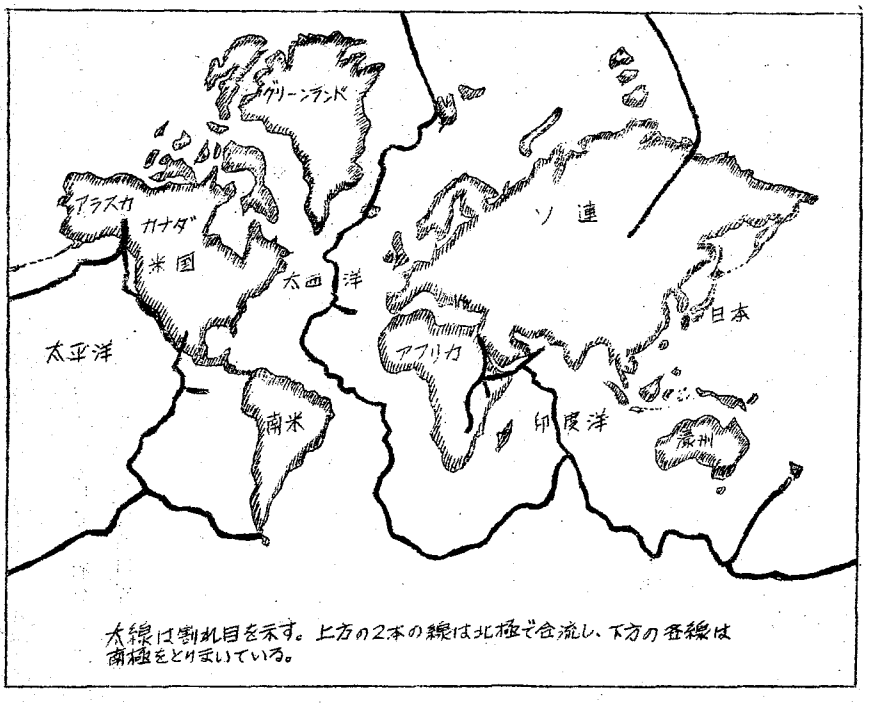
このクラカトア山大爆発の前後及び期間中に空中で発生した不思議な現象もこの書物に詳述してあります。噴火や地震のせいにすることのできないさまざまの現象が起こりました。一例をあげますと、一八八四年一月十日に多くの奇妙な球型の物体が落下しました。それは柔らかくてパルプ状で、乾いてから触れるとくだけ散りましたが、まるで人間がまいたように地上に一列になって落ちたということで、同時に大きな音が聞こえました。

現代において、特に米国でわれわれはＮＩＣＡＰ（空中現象調査委員会）のロバート・Ｊ・グリブルから次のような事実を聞いています。

「山林監視人の報告によると、レイニア山のいつもは雪でおおわれている地区で雪と氷が溶けていて、長いき裂が生じて、そこには蒸気が噴出している」

これはグリブル氏から私が直接に聞いた話です。

ケァリフォーニァ州のシャスタ山も死火山ですが、いつ爆発するかわからない状態にあり、ラセン山もそうです。近い将来、米国では何らかの活動が起こるでしょう。



太線は割れ目を示す。上方の2本の線は北極で合流し、下方の巫線は南極をとりまいている。

九個所の退避地

C・A・ハニー

過去数週間のあいだに〝エスクァイアー〟誌の例の記事（注。核戦争が発生した場合、世界中でたった九個所の安全地帯があると述べた記事）について心配している人たちから手紙を受けとりました。その結果、あの特別記事によって残された誤った印象を除くためにこの短い評論を書くことにしました。あの記事の結論のなかには誤ったのもありますし、読者を惑わすようなのもあれば、百パーセント正しいのもあります。

もし核戦争が発生すれば、あの記事に述べられている九個所の地域が唯一の安全な場所といえるでしょうか。事実はいったいどうなのでしょう？　ここで状況を分析してみることにします。

例の記事であげてある次の九個所は米ソ間に一大核戦争が起こった場合に安全な場所であるということになっています。

1ケァリフォーニア州ユーレカ、2アイルランドのコーク、3メキシコのグァダラジャラ、4チリーのセントラル峡谷、5アルジェンティンのメンドサ、6ブラジルのベロホリゾンテ、7マダガスカルのタナナリーヴェ、濠州のメルボルン、9ニュージーランドのクライストチャーチ。

北米大陸からはわずかに二個所だけ、そして南米からは三個所だけがあげてあることに注意して下さい。他は全世界に散在しています。

右の九地域は天気図や風配図などを参考にして決定されたものです。そして米国、ヨーロッパ、ソ連の空中または地上における核爆発の後に起こるひどい死の灰を最も受けやすい地域や、各種の死の灰そのものにも注意がそそがれました。ある種の死の灰は放射能を急速に失い、数時間または数日後に危険がなくなりますし、また数年間も致死的な放射能を保っていて、戦争が終了した後も長く残ると考えられるのもあります。

地球の周囲にある磁場とその間接的な結果である風向きのために、北半球の爆発は放射能灰の約九十五パーセントを残し、約五パーセントを南半球へ送ることになります。この事実だけでも南半球は米国、ヨーロッパ、アジア地区よりも概して安全であることを意味します。全世界で最も安全な場所は南極大陸ですが、実際上南極は人間の住めるところではありません。

米国内で唯一の安全な場所と考えられるのはケァリフォーニア州のユーレカです。そこは世界中にふりそそぐ死の灰の降下地域のまっただなかにあって、気まぐれな風がそこを死角にする可能性があります。最近死の灰の危険をのがれるためにある宗教団体が移動して行ったケァリフォーニア州のチコは実は最悪の場所の一部分であって全然退避地にはなりません。

北米地区の他の場所としてはメキシコのグァダラジャラがあげられています。そこも死の灰がふりますが、その近辺の他の地域ほど多くはありません。しかしそこは大きな不利な点をともなっ

ています。すなわちそこは危険な地震発生地帯のどまんなかにありますので、未来において大激変を起こしやすいのです。ここもたしかに安全地点ではありません。

考えられるあらゆる事実をもって世界地図を見わたすとき、以上のすべては何を意味するでしょう。要するに次のとおりです。すなわち、もし核戦争が発生した場合、前記の九個所は世界のいずこよりは多少安全かもしれませんが、やはり危険だということです。かりに安全だとしても、そんな狭い地域へ多数の人間を収容することはできませんし、だいいち食料を外部から輸送しなければなりませんが、それはすでに放射能で汚染されています。

安全な場所は実際には存在しません！　われわれは土地を選ぶことはできないのです。核戦争を防止するかそれとも地上から人類を消すかのいずれかです。理性を失って現在まだ存在していない危険の盲想から脱出しようとするのは愚かしい限りです。危険な状態が発生すればそれは世界中にひろがるのです。安全な場所は存在しないのに、かえって案外安全であるかもしれない現住地からよけいに危険になると思われるような場所へ人々はなぜ逃げようとするのでしょう。

これまで核戦争を避ける機会をふやすためのすぐれた方法がじられてきました。この方法を指導している人たちは賞賛されるべきです。その一つに核実験禁止協定があります。これが　立することを願うものです。このようなすぐれた処置は次の処置を講じるのをきわめて容易にします。この協定に関係ある国家で働いている宇宙人の多くは、協定達成に積極的に活動してきたにちがいないと思います。（17ページへ続く）

ソ連からの驚くべき情報

ゴードン・W・クレイトン

一九六一年一月にソ連の新聞が円盤非存在説を立証するために全ページをついやして書きたてたとき、私は鉄のカーテンの背後に何かすごい事件が起こっているにちがいないという確信をひ歴した。われわれはソ連の政府筋から情報を求めるのは不可能であることを知っていたので、真相はおそらくわかるまいとあきらめていた。ところがイタリアの円盤研究家アルベルト・フェノグリオ氏が多数のソ連人と個人的に会って入手した驚くべき話をうまくまとめあげてくれたのである。このソ連人たちというのは匿名にしなければならないが、その一人は西欧に駐在している外交官で、もう一人は技術上の使命を帯びて最近イタリアにいた技師である。

ローマで発行されているミサイルと宇宙開発の専門誌に掲載されたフェノグリオ氏の記事を要約して次にかかげることにしよう。

疑い深い人はかかるソ連人の情報提供者の氏名が明らかにされない点をバカにしてかかるだろうし、そのために情報の全部がウ

ソで満ちているのだと思うであろうことを、われわれは当然認めなければならない。しかしこの問題について直感力のある人は他国の出来事の報導に多数の同意点があることを認めて、それにしたがって自身の意見を形成されるだろう。

あらゆる軍施設、核兵器、空軍基地、ミサイル基地などをもつソ連は絶えずUFOの監視を受けている。ソ連の権威者はこのことを知っていて不安なのである。空軍の要員や民間パイロットたちは昼夜国中に出現する巨大な円盤、火球、大葉巻型船などに出会っており、無数の一般市民もそれを目撃している。

UFOはしばしばレーダーにとらえられている。一九五九年の春に、戦術ミサイル司令部のあるスベルドロフスク上空に二十四時間以上もUFOが現われたとき、レーダー基地要員や空軍のあいだに警報が発せられてちょっとした騒ぎをひき起こした。

円盤は狙撃された

これまでソ連空軍のパイロットたちは円盤や火球を狙撃してきた。あるパイロットは一個の巨大な火球を突き抜けて飛んだことがある。あとで精密に調べたところ、本人も機体もかすり傷さえ受けていないことがわかった。その火球は彼を通り抜けさせるためにいわばただ〝ふくらんだ〟のであって、そのあとまた縮み、何事もなかったかのように飛び続けた。機関銃の射撃を受けるとそれは巧みに避けたりジグザグに飛んだりして、明らかに知的な操縦がなされていることを示した。

円盤（複数）は飛行訓練を受ける人々に特別な興味をもっているらしい。ソ連の民間飛行士の免状を取ろうとする多数の志望者は、円盤がしつこく彼らにつきまとう有様を述べている。飛行場へ帰ってゆくのを追いかけて来ることさえあった。

目撃された葉巻型船の最大のものは全長が八百メートルから一キロに及んだ。昼間に観測されるときにはこの葉巻型船は（複数）尾部から大きな火炎と煙をはいた。夜には強烈な青白いリン光を放った。空中に停止しているときは葉巻型船は灰色となり、そのために雲や空と区別しにくくなったとしばしばいわれている。こうした話のなかで最も興味あるものは次のとおりである。

1　一年前（一九六一年六月ごろ）イルクーツクの付近で四本の脚をもったロケット型の物体が着陸するのが見られた。機体と乗員二名が近くの研究所の女医によって撮影された。

2　約一年前、郵便物と四人の乗員を乗せた小型の郵便飛行機がロシアの中央平原地帯の上空を予定のコースにしたがって飛んでいる最中に消えてしまった。二日後に機体はシベリアのトボルスク付近で完全なまま発見された。機内のすべてのもの—エンジン、ラジオ、郵便袋などはそのままであった。燃料タンクには二時間分の燃料が残っていた。しかし四人の乗員は跡形もなく消えていた。ところが機体から百メートルの所に径三十メートルの大きな円の跡があって、その部分の草はすべて焼けており、地面は押しつぶされていた。

3　昨年、一人の婦人パラシューティストが九千メートルの高度から降下した。その女が乗っていた飛行機のパイロットは彼女のパラシュートが開いて降下してゆくのを見たので、着陸して彼女を待った。女はサラトフへ現われた。しかもなんと三日後にで

ある！　女の説明は次のとおりだ。彼女は降下する途中空中で円盤に捕えられた。円盤の三名の乗員は彼女を深切にもてなしてくれて、大気圏外のはるか彼方へ連れて行って地球を見せた上、ソ連の高官宛のメッセージを彼女に託したという。メッセージの入っている封筒は土地の警察署長へ渡されたがその内容については不明である。

4　昨年夏、ヴォロネツ市の上空に少なくとも全長八百メートルの巨大な葉巻型船が白昼に出現し、二千メートルの高度まで降りて停止した。多勢の人がそれを見て町中は大騒ぎになった。すると突然その葉巻型船は〝透明〟になり始めて、完全に消えてしまった。このあとまもなく数機の空軍戦闘機がやってきてぐるぐる飛びまわった。明らかにそれを捜索しているのであった。当惑した戦闘機群が町を去ってからまもなく、〝怪物〟が同じ位置に姿を現わした。すると急に船尾からすさまじい火炎を吐いて動き始め、急上昇してものすごいスピードで消え去った。

5　昨年夏、モスクワの北方約百五十キロのリビンスク付近の丘の上に、モスクワの防衛網の一環として新しいロケット砲台が設置されつつあった。すると一個の大きな円盤が約二万メートル上空に出現したが、そのまわりには多数の小型円盤がつき添っていた。円盤群は停止して砲台を観察しているようであった。神経質な砲台司令官は恐れおののいて、独断でその大型円盤めがけて一斉射撃の命令をくだした。そこで全砲台が一斉に火を吹いて空中に一大スペクタクルが展開したがむだであった。二度目の一斉射撃が行なわれたけれどもやはり同じだった。三度目の射撃は行なわれなかった。なぜならこのとき小型円盤が動き始めて、ミサイル基地全体の電気装置をストップさせたからである。小型円盤群が引きあげて大型円盤のところへ帰ると、電気系統が再び作動し始めた。

6　数か月前（場所と日時は明らかにされていない）、重戦車を製作するある工場で、あわや国家的危機をまねくかと思われたほどの大爆発が発生した。ソ連の高官はこれを米スパイの仕業であると考えようとしたからである。しかし爆発前数週間内にこの工場の近くで多数の葉巻型船や円盤が見られてきたし、ちょうど夜明け方に工場にむかって落ちてゆく一個の火球を見たという数名の目撃者がいた。それに続いて大爆発が起こり、〝強烈に輝く無数の小さな球体〟が飛び散った。まだ薄暗い早朝に付近一帯はパッと明るくなり、大爆風が感じられた。数分間工場はもうもうたる煙に包まれたが、それが静まってからあとに残ったものは破片のつまった大穴だけだった。その大穴は、爆発前は工場のある特殊部門があった位置にあいていた。この部門では原子砲に応用するための特殊な自動装置が製造されていたのである。爆発後に一機の円盤が数分間上空に静止していたが、それはまるで仕事が終わったのを見とどけるかのようであった。すると空軍の戦闘機が接近してきたので円盤は飛び去った。

しかし最大の神秘はケガ人がなかったということである。というのは爆発前数分間、工場の警報サイレンが鳴ったために全従業員が事前に退避したからである。後の調査によってだれも警報用スイッチに触れた者はいなかったことが判明したのに—。

テレパシー通信講座始まる

ハニー氏発行の〝サイエンス・パブリケイションズ〟ニューズレター十月号によりますと、テレパシー通信講座が開始された旨の説明が次のように出ています。

テレパシー通信講座開始のお知らせ

この新しい通信講座は宇宙人によって応用されている〝宇宙の諸法則〟を包括しています。これは分冊になっていて、各分冊ごとに受講者の進歩を知るための試験問題が添付してあります。各分冊はルーズリーフ式バインダーにとじ込めるようにしてあり、必要な図解も載せてあります。

この講座はテレパシー、宇宙科学、哲学を含みますが、さらに理解の発達を助けるのに必要な磁気、電気などの基礎的な知識も与えるように仕組まれています。磁気と電気の基礎的な知識がなければテレパシーを理解することはできません。

この講座は従来のテレパシーに関する一般の諸説とは異なるのであって、宇宙人からアダムスキー氏へ伝えられた新しい教えです。その大要はア氏の著書〝テレパシー〟に述べてあります。テレパシーは本来科学的なものであって、各段階ごとに実際的な説明がなされています。この講座を受講される方は一定の研究と訓練に従わねばなりません。研究を行なうのに適当な方法も指導されます。この講座によって受講者は人間が必ず知らねばならない宇宙の諸法則のより大きな理解に達することができます。

この講座はC・A・ハニーによって新しく書かれました。そしてある一定の目的を遂行するために設けられたものです。目下多数の人が世界中に散在している宇宙人の〝計画〟に協力するためにリーダーとして活躍しています。この人たちは現在地球上で行なわれているこの〝計画〟の一部になることを強く願っています。そして報酬や宇宙人とのコンタクトの約束などを求めないで真実を展開させるのに協力し、無私の態度で奉仕しています。だれでもこの〝計画〟の一部になれます。

テレパシー通信講座の受講希望者は別紙　込書に必要事項を記入の上、受講料二ドルを添えてC・A・ハニー宛にお送り下さい。第一分冊の研究を終了し、添付の試験問題に解答を記入したならば、その答案に二ドル（次回分冊分）を添えてお送り下さい。答案を採点した上で次回分冊と一しょにお送りします。次回分冊は一か月後に発送します。これは受講者に充分な時間を与えて、次回にとりかかるまでに徹底的に研究せしめるためです。受講者が途中で脱会するのは自由です。

ケァリフォーニア州アナハイム

C・A・ハニー

編集後記

◎ 現在世界の円盤研究界は極度の混乱におちいっていてだれのいっていることがほんとうなのかわけのわからぬ状態にあります。アリストテレスを悩ませた〝ウソつきのクレタ人〟の問題は二十世紀の今日もなお論理学者を苦しめていますが、円盤問題においては到抵比較にならないほどの大きなナゾが存在しています。ここにおいて私たちが最大の魅力を感じるのは、過去の哲学者や論理学者が夢想もしなかった〝テレパシー〟の能力のポテンシャリティーとその駆使です。背理やパラドックスのともなう日常の言語を超えたある直感力、異常に鋭敏な洞察力といったものを身につけることがいまや急務となってきたように思われます。アダムスキー氏著〝テレパシー〟はかなり簡略な記述のために理解しがたい点もありましたが、ハニー氏の講座は詳細な説明に満ちていて明快です。第一分冊はすでに編者の手元に届いていますので、次号から連載する予定です。

◎ 十菱りん氏が発行されている月刊誌〝AUM〟の八月号に、〝偉大なる沈黙の破られんとするとき〟と題する記事で、アダムスキーが今年初夏にデンマークでの講演の後ローマで四十五人の枢機卿に講演を行ない、ローマ法王も非常会議を召集してカトリック教義を修正し、宇宙人との接触による新しい宇宙観に即応する新カトリック教会を準備中である旨を、十菱氏の友人フランシス・ゴルドニー氏から知らせてきたとありますが、これは先号中のア氏の言明を確証するもののようです。〝AUM〟誌はその他有益な記事に満ちています。（発行所・埼玉県与野市下落合七六五、あうむ連合出版部。一部百円）

◎ 本誌は編者がタイプライターを操作して製版し、印刷は専門のタイプ印刷所へ依頼する方法によっています。そのために毎号印刷費に四千円近くを要し、発送の送料その他で計七千円ほどかかります。これでは赤字になって長続きしませんので、印刷も編者がやることにして一度安物の中古印刷機を使用して刷ったことがありましたが、調子が悪くて使いものにならず、その機械は返却して、もっと高級な輪転機を購入する計画をたてました。これにはざっと八万円を要しますが、これが天の配慮によって与えられんことを祈るものです。

◎ 経済上の行き詰まりと肉体的な疲労のために意気消沈しながら本号のタイプ打ちをやっていた十月十二日の夕方六時すぎごろ家内と老母が騒ぎ始めて大声で編者を呼びますので、裏庭へ出てみますと「いま円盤が飛んだ」といいます。編者が見たときはかすかな線状になっていましたが、話を聞きますと、最初星のような光点が月よりは小さいオレンジ色の円型に変化して、くの字を描きながら南から天頂へ移動し、方角を変えて西の方へだ円型から線状にと変化しながら動いて行ったということでした。（久）

日本GAPニューズレター 一九六三 9月・10月
通巻第18号
昭和三十八年十月廿日発行
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
島根県益田市益田古川
振替 松江二六三〇
（久保田八郎個人名義）
頒価一〇〇円・送料二〇円